未来へつなげ！

復興のバトン

東日本大震災津波の記憶と教訓を次世代へ。復興と共に進む若者たちがいます。

第2回 株式会社かまいしDMC

小松野麻実さん（釜石市）

新型コロナウイルス感染症の影響で、釜石市内でも多くのイベントが中止に。そこで、三陸ひとつなぎ自然学校は、遊び場が減った子どもたち向けのイベントを開催。会場で子どもたちと笑顔で遊ぶ、小松野さん。（根浜シーサイドパークにて）

とにかく釜石の人が好き

みんなを笑顔にする釜石の太陽 今日も地域と人をつなぐ

釜石市の観光地域づくり会社「株式会社かまいしDMC」に勤める小松野麻実（あさみ）さんは、釜石の人や地域の魅力を伝えることに使命を感じ、日々奮闘しています。

釜石中学校の2年生のときに、東日本大震災津波を経験した小松野さん。津波は、自宅の目の前まで押し寄せ、日常生活は一変しました。

「避難所には、小さい頃からお世話になっている方々がたくさんいました。打ちひしがれている姿を見て、『できることはやらなきゃ』と思い、自宅待機期間は避難所の手伝いをして過ごしました」と当時を振り返ります。

地元の高校を卒業後、東京の大学に進学。在学中に防災士の資格を取得し、釜石のためにできることを模索していました。大学3年生の時、釜石の地域団体「三陸ひとつなぎ自然学校」でインターンシップを経験し、釜石の魅力を地元の高校生にむけてPRする活動をしました。卒業後はかまいしDMCに就職。現在は、根浜シーサイドでキャンプ場の運営スタッフとして働いています。

「震災から9年間ずっと、まちづくりのために走り続けてきた先輩たちの力になり、伴走していきたいと思っています。若い世代に津波の教訓や、地域の魅力を伝えていくのが私の役目。まさにバトンをつなぐことですね」と、小松野さんの目は、未来をまっすぐ見つめています。

いつも元気で、地元の人から「釜石の太陽」と呼ばれる小松野さん。持ち前の明るさで、地域のみんなを明るく輝かせています。

左から、旅館「宝来館」の女将・岩崎昭子さん、小松野さん、三陸ひとつなぎ自然学校代表・伊藤聡さん。津波から逃げるために作られた宝来館裏山の避難道にて。「この教訓を伝えていきたい」と小松野さん。

根浜海岸「浜辺の料理宿 宝来館」の裏山に作られた避難道。東日本大震災津波の際、多くの人がここに登って一命を取り留めたことから、宝来館の女将・岩崎さんが、クラウドファンディングで資金を集めて山道を整備。車椅子を押して避難できる避難道に。

株式会社かまいしDMC

観光を通じた震災復興を目指す釜石市が設立した、観光地域づくり会社。地域資源を利用した体験ツアーの企画、釜石へのイベント誘致などに取り組み、市外からの交流人口の増加を目指しています。